

浜の風景

火散布沼あさり礁の再生をめざして

浜中町役場
水産課

第 4 号

◎火散布沼のあさり漁

火散布沼は、海水が直接出入りする汽水湖で昔からあさりの格好の漁場となっています。あさりの水揚げも、あさり礁の造成などにより一時期には、水揚量で年間一〇〇トン以上、資源量も四〇〇トンを越えるなど、散布地区漁業者の冬期間の貴重な収入源となっていました。

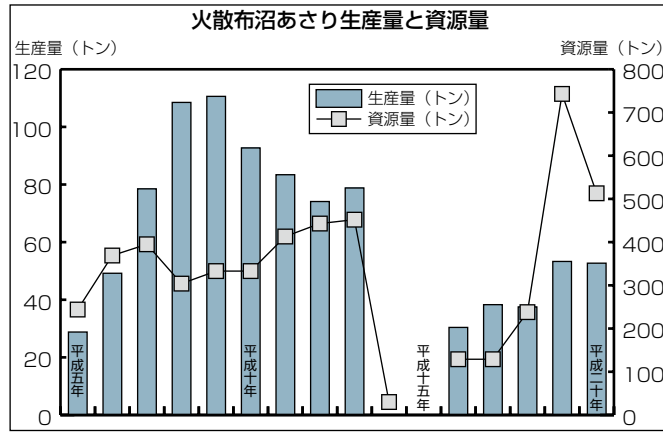
しかし、平成十四年にあさりの大量へい死現象が起こり、二年間出荷できない状況となりました。原因は、エサ不足や低温、悪天候などが考えられましたが、残念ながら直接的な原因については、断定することができず、改めて自然環境とあさりの生態とが微妙な関係で成り立っていることを教えてくれました。



火散布産の大粒のアサリ
(写真はほぼ実物大!)

あさりの大量へい死を受け、散布漁協では漁場再生計画に取り組みました。始めにへい死したあさり貝を除去するとともにあさり礁の耕うんを行い、礁の底質(砂)を改善、次に稚貝を購入し、礁に移殖、放流を行いました。また、エサ量調査や環境調査などの状況把握を行いながら、平成十六年には操業を再開し、現在では年間五〇トンの水揚げをするまでに回復しました。

◎大量へい死から再生への取り組み



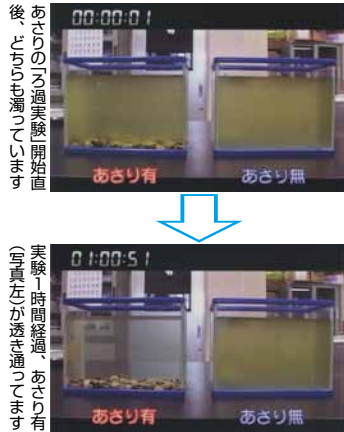
◎あさりの力

あさはりには海水中の植物性プランクトンなどをエサとしています。汽水湖ではこのプランクトンが豊富に含まれています。あさりの成貝では一時間に一リットルもの海水を飲み込みことによりエサを補給しますが、同時に飲み込んだ海水をろ過する能力も持ち、沼の水質悪化を抑えて環境を整える役割もあります。



あさり漁操業風景 (はさみ採り)

あさり漁操業風景(手掘)



あさりの有無実験開始直後、どちらも濁っています

実験1時間経過、あさり有(写真左)が透き通っています

◎あさり礁を守る取り組み

あさりの浄化作用により沼の水質悪化は抑えています。あさり礁はそのままでは徐々にへドロ口が堆積したり、あさりの死貝により砂質を悪化させたり、さらに砂が硬くなったりにして、あさりの住みにくい環境となってしまう。

そこで、あさり礁を保全することを目的として散布漁協あさり部会の人々が中心となって、「火散布沼を保全する会」を立ち上げ、あさりの生息しやすい砂を補充して底質を改善したり、生育環境の悪化を防ぐための死貝の除去、あさりの外敵であるヒトデなどの駆除を行っています。



ヒトデ駆除の様子

◎環境・生態系保全活動支援事業

活動に対し、水産庁の「環境・生態系保全活動支援事業」により交付金が支給され、火散布沼の保全活動を支援しています。(交付金は、国が五〇%、道が二五%、町が二五%の負担割合となっています。)